

令和7年7月2日

農作物生育・技術情報4号

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1. 水稻生育状況（7月1日現在）

●生育状況調査(中苗ななつぼし・5/25前後移植ほ場)

区分	草丈 (cm)	葉数 (葉)	茎数 (本/㎡)	遅速 日数	備 考
R7年	50.7	9.3	543.4	+4	幼穂形成期 6/29(平年7/3)
平年値	43.2	8.6	487.7		
差	+7.5	+0.7	+55.7		

(1) 本年は6月に入ってから気温が高く、日照時間も多く推移しています。幼穂形成期(中苗ななつぼし)は6月29日と平年より早い状況ですが、移植後の活着状況等により、ほ場間差が見られます。

(2) 幼穂形成期から10日間が前歴期間、10日後から1週間が冷害危険期となります。この期間の水管理の善し悪しは不稔発生に大きく影響します。幼穂形成期を確認したら、目標水深を確保するとともに止め水とし、水温の確保を行ってください。

①前歴期間：花粉の数を決定づける大事な時期です。平均水温は25℃以上を確保しましょう。水深は4～5cmから1日1cm程度高くなるようにし、水深10cmになるよう徐々に深水にしましょう。ただし、茎数が少ない場合(㎡当たり600本以下)は幼穂形成期から5日間の水深を4～5cm程度に維持して分けつを促進させ、その後徐々に入水し水深を10cmにしましょう。

②冷害危険期：前歴期間に作られた花粉の発育を維持する時期です。水深は10cmから幼穂の伸長に合わせて1日1～2cm程度ずつ水深を増加させ、最大水深18～20cmになるようにします。

(3) 病害虫の発生状況

ア 葉もち：7月1日現在、初発は確認されていませんが、過去に発生したほ場を中心にほ場の観察を行い、発生の有無を確認してください。

イ アカヒゲホソミドリカスミカメ：北海道病害虫防除所によると、本年の本田への侵入は早く、発生量および被害は多くなるものと予想されています。畦草刈りや防除の準備等、計画的に進めてください。

2. 畑 作

(1) 秋まき小麦

出穂後約1ヶ月頃から穂水分測定による収穫予測が可能になります(本年の出穂期：5月29日～31日頃)。測定を希望する方はJAや普及センターまでお問い合わせください。

(2) 豆 類

中耕作業は、断根を防ぐため開花始めの10日前までに終わるようにしましょう。

追肥は、大豆では生育や根粒菌の着生状況で、小豆では生育や地力を考慮し実施の有無を検討しましょう。

＜追肥の目安と時期、施肥量＞

- ・大豆(根粒菌が1個体あたり10個未満の場合) 開花始め頃に窒素5kg/10a
- ・小豆(生育が劣っていたり地力が低いほ場) 第3本葉展開期頃に窒素5kg/10a

(3) ばれいしょ

○疫病：7～10日間隔で防除を実施してください。また、菌核病、夏疫病等を含めた同時防除を検討しましょう。

○軟腐病：高温多湿条件では発生が多くなります。また窒素過多や倒伏したほ場も注意が必要です。初発を確認したら速やかに防除を実施しましょう。

3. 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト	3月定植：4～6段目収穫中 4月定植：2～4段目収穫中 5月定植：1段目収穫中 6月定植：1～2段目開花 ・灰色かび病、黄変果、軟果等が発生している	＜黄変果・軟果対策＞ ・暑熱資材（塗布剤、遮光ネット）の活用やリーフカバーで、果実表面温度の過度な上昇を避ける ＜灰色かび病対策＞ ・葉の過繁茂による多湿を避ける ・ベットの内側や下葉の摘葉を行い、通気性を確保する
ハウス軟白ねぎ	・3月定植収穫中 ・アザミウマ類が発生している	・ハウス周辺の除草を行う ・アザミウマ類の防除に努める
アスパラガス (ハウス立茎)	・萌芽～夏芽収穫始め ・生育は概ね順調である	・斑点病の早期防除に努める ・ハウス内の湿度を高めないように換気に努める ・ハウス周辺の除草を行う
かぼちゃ	・一番果着果～肥大期 ・生育は順調である	・畝間に追肥し中耕する

4. 飼料作物生育状況（7月1日現在）

作物名	生育状況				農作業	適要
	項目	R7年	平年	遅速日数	一番草収穫期 (平年)	
牧草	草丈(cm) (2番草)	11.0	9.8	+2	6/20 (6/23)	収穫はやや早く進んでいる (+3日)
飼料用とうもろこし	草丈(cm) 葉数(枚)	97.3 10.3	86.5 9.5	+3		生育の遅速は平年よりやや早い。高温により生育は進んでいる

●牧草の生育を適正にし、牧草割合を高めるため追肥を行いましょう

1) 追肥により、収量が高まります。

2) 追肥により、分けつが発生し牧草割合が無追肥より高まります（雑草の侵入防止）。

●防疫対策を行いましょう

夏期は気温と湿度の上昇によって病原菌が繁殖し、乳房炎を始め様々な疾病が発生しやすくなります。作業者の予防意識を高め、防疫対策を徹底しましょう。

ア 農場出入口には車両用に消石灰(目安：0.5～1kg)/㎡を散布し、消毒帯(2m以上、タイヤ一周分)を作りましょう。畜舎等の出入口には、踏み込み消毒槽を設置しましょう。

イ 牛舎出入口にネットを設置し、野生鳥獣の侵入を防止しましょう。

ウ 換気を行い、敷料の交換頻度を高め、牛体(乳房・乳頭)を清潔に保ちましょう。

エ 搾乳機器・バルククーラーは日常的・定期的に点検し、部品交換を行い、異常が確認された場合は速やかに修理しましょう。